

ケータイ活用による授業方法の改善

高橋 参吉

千里金蘭大学 生活科学部

s-takahasi@cs.kinran.ac.jp

筆者は、10年近く、学習支援システム C-learning を利用して授業を行っているが、2008年度にこのシステムの改善が行われ、従来以上にケータイからの利用がしやすくなった。そこで、本報告では、本学における学習支援システムの利用について述べるとともに、本学での利用ならびに、筆者の授業での活用場面を紹介する。

1. はじめに

筆者は、10年ほど前から、学習支援システム C-learning⁽¹⁾ を利用して、主に情報科教育関連の授業で利用していた。特に、2008年度に Ver.2 に変更され、学生がケータイから授業登録が簡単に行え、学生管理が容易となった。授業で、C-learning を活用できる場面が広がった。

また、文科省および日本私立学校振興・共済事業団の補助金により、2008年度からは食物栄養学科の管理栄養士の国家試験対策に、2009年度からは学生支援センターのキャリア教育に導入され、主にケータイから利用されている。

本稿では、本学における C-learning の利用ならびに、筆者の授業での活用および授業改善について報告する。

2. キャリア教育でのケータイの利用

本学では、従来より、学生支援センター主催の就職試験対策講座や入学時の基礎学力試験、ならびに2、3年生の就職試験を実施している。しかしながら、卒業時には、国家資格などを必要とする職業に就くことを目指す学科構成となっているため、より一層、キャリア教育の充実が求められていた。

そこで、2009年度に、パソコンやモバイル機器（ケータイやモバイル端末）を使用して、常時学習できる環境を構築した。さらに、基礎学力を向上させるための問題（SPI 試験と同じような問題）を C-Learning に小テストとして登録し、運用を開始した⁽²⁾。

学生は、ケータイを利用して、通学時間の合間や授業の合間を使って学習し始めている。モバイル機器を利用した学習環境および支援体制のイメージは、図1のとおりである。

また、2008年度から、食物栄養学科の管理栄養士国家試験過去問題（約600問）を C-Learning のドリルとして登録を行い、学習支援を実施している。

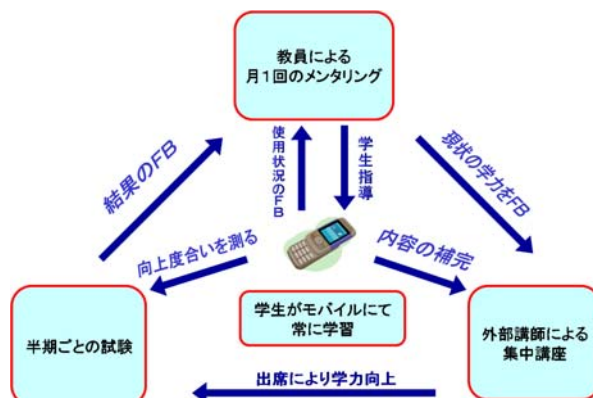


図1 モバイル機器による学習環境および学習支援

3. 授業での活用例

筆者が算数科教育法で利用している教師用のメニュー画面を図2に示す。



図2 C-learning のメニュー画面（教師用）

図2のメニューに示したように、C-learningには、概ね、11の機能があり、私の授業では、ほぼ、すべての機能を利用して授業を実施している。授業でのいくつかの利用例を紹介する。

(1) 出席管理

授業の出席は、出席管理機能を利用してケー

いでとる。出席は 30 分で打ち切られるので、30 分以上の遅刻、実習による公欠や欠席連絡（相談室に事前連絡させる）のあったものは、平常点の評価に利用することを想定して、コメント欄に理由などを記載しておく。

(2) アンケート

授業の感想、授業アンケートなどは、アンケート機能を利用してとる。また、授業の本題に入る前に、簡単なアンケートを作成して、ケータイで回答させることもある(図 3)。

質問	回答数	回答率	グラフ
あなたにとって望ましい授業は？			
回答1 (1) ナンバーワンからオンリーワンを目指す授業	6	11%	
回答2 (2) 児童・生徒が主体的かつ能動的に活動する授業	15	27%	
回答3 (3) 児童・生徒と教師が共に学びあう授業	18	30%	
回答4 (4) 知識・好奇心を高める授業	7	12%	
回答5 (5) 課題解決型の授業	9	16%	

図 3 C-learning によるアンケート (結果画面)

(3) 掲示板

学生への連絡事項は、掲示板を利用して、緊急ならば学生のケータイへも一斉送信をする。これも最初の授業で、ケータイに転送されることを確認しておく。なお、昨年度のインフルエンザ騒動では、この機能は非常に役立った。

(4) 教材倉庫

授業が進んでくると、授業用の PowerPoint 資料は、教材倉庫に上げる。筆者は、PowerPoint の資料については、事前に公開はせず、授業終了後に公開するようにしている。

(5) レポート

レポートについては、レポート機能を利用して提出させる。添付ファイルが 3 つまで利用できるので、例えば、教科教育法の授業では、学習指導案 (Word ファイル) と教材 (PowerPoint ファイル) を添付させて提出させる。

(6) 協働板

授業では、グループごとの協働板を設定して、学生のグループ討議に活用している。例えば、教職科目 (教育の方法と技術) の授業では、テーマを設定 (例えば、理想の教師像は?) して、アンケート機能を利用して事前アンケートをとったのち、協働板で、グループ討議を行う。また、教養科目 (環境とエネルギー) の授業では、履修学生が全学科にまたがるために、協働板を利用して、班でのレポートの作成に利用している。

(7) 小テスト

教養科目 (情報社会と倫理) の授業では、利用している教科書⁽³⁾などの練習問題を C-learning の小テストにして登録している (図 4)。その単元が

終了したときに、小テストを行い、成績評価に加味している。

問題	解答数	解答率	グラフ
問題1 (ネット社会のモラルとマナー)			
解答1 (1) 図書館の中	1	3%	
解答2 (2) 飛行機の中	0	0%	
解答3 (3) 病院の中	1	3%	
解答4 (4) 駅のホーム	27	93%	
未解答/未選択	0	0%	
問題2 (電子メールを作成するさい、必ずしも入力する必要がないものとして、最も適切なものを一つ選びなさい。)			

図 4 C-learning による小テスト (結果画面)

4. ケータイ利用は授業方法の改善?

さて、授業中にケータイを持ち込んではいけないといわれる中、私の授業は異なる。学習支援システムやこのようなケータイの活用は、授業改善となるのであろうか?

C-learning の利用により、出席確認、レポートの受領など正確 (ただし、「なりすまし」はないものとして…), かつ、便利である。また、ドリルや小テストでは、基礎的な事項の確認が行える。

協働板の利用により、授業中、さらには授業外での討議内容や学習者の思考など学習プロセスが、協働板に記録される。成績評価は、試験やレポートだけではなく、平常点は単に出席点ではなく、日常の学習活動の評価である。協働板での学習プロセスを分析して、成績評価に十分くみこんでいるとは言えないが、考慮はしている。

大学の授業で大切なことは、まず、学生に成績評価の方法や規準を明確に示すことだと思っている。そのことによって、教師の授業方法も変わるし、学生の受講態度も変わると思っている。このことが、授業改善につながるのではないだろうか。

5. おわりに

ケータイを利用しているが、すべてはパソコンでも行えることを説明している。また、無線 LAN で利用できるモバイル端末も用意している。

参考文献

- (1) C-Learning : <http://www.c-learning.jp/Liaison/index.php>
- (2) 高橋 参吉, 坂口 直之, 原田 淳史 : モバイル E-learning によるキャリア教育への支援, 教育システム情報学会研究会報告 Vol.6, pp.122-127 (2010).
- (3) 情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ : インターネットの光と影 Ver.4, 北大路書房 (2010).